

おとど 音届けコンサート

3日間で12公演!!感動のフィナーレ

12月12日～14日まで行われた音届けコンサートの町民センターでの最終公演の様子の一部を写真とともにお届けします!



3年生にとっては最後の演奏となった「モダン・タイムス セレクション」。大会に向けて練習を重ね、何度も演奏してきた思い入れのある曲です。演奏では、どこからともなく色んな音が聞こえてきて、とても10人で演奏しているとは思えないような厚みのある演奏でした。

3年生の3年間の思いとその思いを受け継いだ2年生の気持ちが溢れ出る素晴らしい演奏に、多くの人が胸を打たれました。



佐呂間高校卒業生で打楽器奏者として活躍する石川慎也さんのティンパニ独奏は圧巻でした。自分の周りを取り囲むように5台のティンパニを並べ、素早い手さばきで奏でられる重低音は何ともいえない迫力でした。「町民のみなさんの応援があつてここまで成長できた」と話し、感謝の気持ちが込められた迫力ある演奏に観客は魅了されました。



写真後列左から、青野未来さん、石川陽捺さん、伊奈音葉局長、橋本芽育さん、宮下麻衣さん、海老名佑香さん
前列左から、顧問の山本真平先生、木船紗綾さん、中道唯さん、石川琴音さん、住吉明さん

審査講評では全項目で最高評価のA評価を獲得し、審査員からは「チャップリンのようなユニークな演奏」「各曲の雰囲気がよく出ており、劇の様子が目に浮かぶ」などと高く評価され、「表現力に磨きをかける」という全国大会に向けた取り組みが実を結びました。

結果発表では、緊張のあまり最優秀賞を受賞した事に気付かなかったそうです。大舞台での重圧をはねのけ、自分達の音楽を全て出し切れる彼女達の精神力の強さが伺えます。

審査講評はオール「A」

今大会を通して、自分達より少人数で素晴らしい音楽を奏でる高校を目の当たりにし、自分達の音楽にもまだまだ多くの可能性を秘めていると感じたそうです。現在の吹奏楽局の目標は、「一人ひとりの音に磨きをかける」

伊奈局長は「自分達の音楽を聴いた人が明るく楽しい気持ちになつてもらえるような音楽を目指したい」と話してくれました。結果に満足することなく、自分の音と真摯に向き合う彼女達のひたむきな姿勢が素晴らしい音を奏でる原動力となっています。

自分達の音と向き合う

石川さんはメインのフルートを含めて4種類を担当。サブの楽器の中には面白い音を奏でるものもあり、曲のアクセントとして重要な役割を果たす



み、という思い切った編成もありました。佐呂間高校は、楽器の持ち替えにより、10人で20種類以上の楽器を奏でて音楽に豊かさを出しました。楽器の中には、古くに学校で使われていたチャイム用の鐘や調理器具のボールなどユニークなものも使用しました。

今大会で演奏した曲は、チャップリンの代表作である映画「モダン・タイムス」の挿入曲セレクション。顧問の山本先生は「いかにファンタジー豊かに演奏できるかに重点を置いた」と話し、映画の情景などを音だけで表現するために、全員でモダン・タイムスを鑑賞するなどして、曲への理解を深めました。また、一人ひとりが曲の雰囲気合う音色を追求し日々の練習に励みました。

表現力に磨きをかけた



佐呂間高校吹奏楽局
伊奈 音葉 局長

全国大会

最優秀賞

佐呂間高校吹奏楽局は11月18日に東京都尚美バリオホールで行われた第24回日本管楽合奏コンテスト全国大会に出場し、見事、最優秀賞を受賞しました。

少人数ならではの演奏

佐呂間高校が出場した高等学校S部門は35名で構成される少人数部門。少人数での合奏は、楽器の編成や編曲にどれだけアイデアを凝縮させられるかがポイントの一つ。出場校の中にはフルートとハーブの

私たちの音楽で恩返しをしたい

私たち吹奏楽局は11月18日に尚美バリオホールで行われた日本管楽合奏コンテストの全国大会に出場しました。結果は16校中6校に選ばれ、最優秀賞を受賞することができました。今回の舞台でしか味わうことのできない少人数の魅了や個々の強みを間近で感じることができ、私たちの可能性を広げてくれた大会になりました。そして、これまでにご支援や応援をしてくださった佐呂間町のみなさまへの感謝の気持ちを忘れず、私たちの音楽で恩返しができるよう日々練習に励みたいと思います。本当にありがとうございました。これからも応援よろしくお願いします。